

市民がともに暮らし、しあわせを実感できるまちづくりを

さで、この4年間を振り返りますと、特に心に刻む二つの大きな出来事がありました。

その一つ目は、町村合併に伴う重要事業のひとつであります「市役所本庁舎の完成」であります。市役所新庁舎の建設は、合併協議会で多くの協議・検討を重ねられ、合併協定書に盛り込まれた事業として取り組んだものであります。合併後5年を基本とするという協定内容からは遅れましたが、市議会の皆さま、市民の皆さまのご協力をいただきJR花輪線北森駅の併設という付加価値を付け完成を見たところです。新庁舎の開庁が、まさに旧3町村合併の集大成であり、八幡平市の新たな出発点となりました。

二つ目は、昨年10月に開催されました第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」本大会であります。市民の温かいおもてなしの心で多くの関係者をお迎えし、無事終了することが出来ました。この国体開催で培われた市民のスポーツに対する関心とおもてなしの心は国体のレガシー(遺産)として今後とも培われるものと確信いたしております。改めて市民の皆さまと議

会のご協力に感謝の意を表するものです。

地方自治に目を向けますと、今年度は地方自治法が施行されて70周年を迎える極めて意義深い年でありま。改めて地方自治の意義と重要性を認識し、基礎自治体としての自主性および自立性が十分発揮され、今後の地方自治の更なる進展を期待するものであります。

私は、7月11日に開催された全国市長会過疎関係市連絡協議会総会において全国市長会過疎関係都市連絡協議会長に選任されました。国土の半数を占めている過疎地域は、豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとの地域であり、都市に対する食糧・水・エネルギーの供給を担っている重要な地域です。

人口減少・少子高齢化が課題となっている過疎地域が担っている役割を今後も発揮していくためには、法期限が平成32年度までとなっている過疎地域自立促進特別措置法の延長による過疎対策事業の継続が必要となります。特にも、過疎対策事業債、辺地対策事業債

は有用性が高く、行政を執行する上で重要な制度です。市町村が幅広く各種施策が実施できるよう法期限の延長と所用額の確保を国に訴えなければなりません。

国に対し、過疎地域に対する支援の充実と、平成33年度以降についても現行の過疎地域自立促進特別措置法と同様の、あるいは内容を充実した支援を継続して受けることができるよう、要望活動などを実施していきたいと考えております。

これからの4年間の市政運営におきましては、市民の皆さまにお約束した公約の実現と、第2次八幡平市総合計画の着実な実行であります。具体的には、平成30年度予算編成過程において政策・施策に反映してまいります。

合併以来、市の将来像であります「農と輝の大地」の実現のため、さまざまな施策を展開してまいりました。今後におきまして、これらの施策を充実、強化させ、環境の変化に対応しながら市民の所得向上に努めてまいります。

第2次総合計画も2年が経過し

ました。なんとか第2次総合計画の芽出しをし、私は苗に育て、次の八幡平市を担う人が畑に移植し、果実を生む環境をつくり出すのが私の4期目の責務と考えております。

我々地方自治体は、国の政策に振り回されておりますが、国の政策がいかように変わったとしても、変化に柔軟に対応しながら、ここで暮らしてよかったと思えるよう、しあわせを感じられるようなまちづくりを目指してまいります。

私は、市民の皆さまに對し、より正確な情報発信に努めるとともに、公平な政治を信条に、八幡平の恵まれた自然環境、資源を活かし、市民がともに暮らし、しあわせを実感できるまちづくりのため、全身全霊を尽くしてまいります。

市民の皆さま、市議会議員各位におかれましては、今後とも市政運営に格別のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。4期目の市長就任のあいさつとさせていただきます。

信 所 明 表



10月10日に召集された市議会第3回臨時会で、9月の市長選挙で再任された田村正彦市長が、4期目就任のあいさつをし、市民の代表である市議会に自らの姿勢を示しました。ここではその全文を紹介いたします。

平 成29年八幡平市議会第3回臨時会の開会にあたり、貴重なお時間を頂戴いたしました誠にありがとうございます。市長就任のあいさつを述べさせていただきます。

私は、このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまから温かいご支援とご支持をいただき、4期目の市政運営をお預かりすることとなりました。これは、市民の皆さまからの、これまでの3期12年の取組への評価と、私の掲げました、これからのまちづくりビジョンや、「医療、福祉、子育て支援対策」、「誘致企業を含む地場産業の振興対策」などに対する期待の現れであると受け止めており、心から厚く御礼申し上げますとともに、改めて、その重責に身の引き締まる思いであります。

また、このたびの選挙戦を通じて、まして、本市が取り組む政策に関する情報を、市民の皆さまに、

隅々まで行き届かせることの重要性を改めて強く認識したところであり、今後の市政運営にあたりましては、しっかりとした情報を基に、市民の皆さまに、正しく理解していただけるよう、鋭意取り組んでまいります。

さて、今後、本市が直面する少子高齢化、人口減少社会におきましても、持続的に発展していくためには、人口の自然増・社会増や、人々の生活を支えるまちの基盤づくりに取り組んでいくことはもとより、時代潮流の変化に伴う課題や社会ニーズをいち早く捉え、将来を見据えて、着実に対応していくことが必要不可欠であります。

そのため、私は、引き続き市民サービスの向上を図ることはもとより、必要な未来への投資に勇気をもって実行し、今を生きる市民の皆さまと、将来を担う子供たちのために、市政運営に全身全霊で取り組んでまいります。